

世界はひとつ

(公財) 岐阜県国際交流センター (略称 GIC) 発行
国際交流・多文化共生情報誌
GIFU INTERNATIONAL CENTER



2025年2月 161号

© 岐阜県 清流の国ぎふ・ミナモト # 0195

医療通訳ボランティア基礎研修を開催しました

当センターでは、医療通訳ボランティアの人材の発掘及び育成を図るため、対象言語(ポルトガル語、中国語、タガログ語、ベトナム語)のいずれかの外国語能力のある方、医療通訳に興味のある方等を対象として、「医療通訳ボランティア基礎研修」を実施しています。

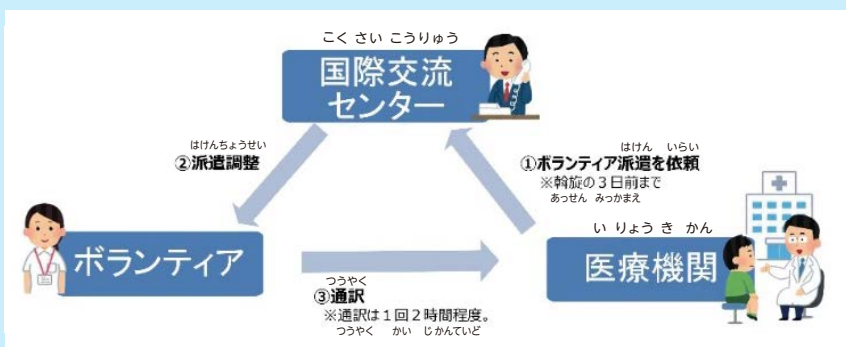
本年度研修では、オンラインと対面により「医療通訳者としての心構え」、「身体のしくみ」、「疾患の基礎知識」等を学習したほか、内科や脳神経外科等を受診した想定でロールプレイ通訳実習を行いました。

参加者の多くは、家族・知人の医療通訳の経験者でしたが、「通訳時に聞き慣れない専門用語や疑問点があった場合、その場で医師へ確認することが重要であることを学んだ。」「自分の通訳が自己流でしかなかったことに気づかされた。」など感想が寄せられ、実践を通じて様々な対応方法を学ぶことで、新たな発見が得られる機会となりました。



ロールプレイ通訳実習

“岐阜県医療通訳ボランティア斡旋事業”



日本語が不自由な外国人の方でも、安心して医療機関を受診していただけるよう、医療機関の依頼に応じて、医療通訳ボランティア(言語：ポルトガル語、中国語、タガログ語及びベトナム語)を斡旋します。

斡旋されるボランティアは、一定レベル以上の知識及び技術を持った当センターの医療通訳ボランティア登録者であり、当センターが行う登録試験合格者となっています。

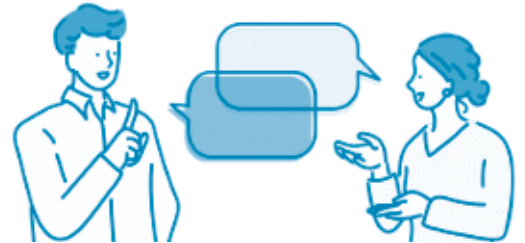
岐阜県日本語学習支援センター

岐阜県では、外国人県民に対する日本語学習支援の拠点として、「岐阜県日本語学習支援センター」を国際交流センター内に開設し、生活に必要な日本語の学習機会の拡大等に取り組んでいます。

あたらしく日本語
教室を立ち上げたい
近くで日本語を学べる
場所を知りたい 等
ご相談ください

●日本語学習に関する相談対応

相談スタッフ1名を配置して相談対応を行っています。



●ぎふオンライン日本語教室

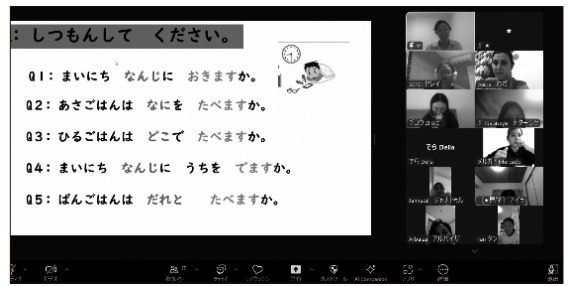
県内どの地域に暮らしている外国人県民にも学習機会を提供できるように、生活に必要な日本語が学べるオンラインの日本語教室(無料)を開催しています。

●はじめの一歩クラス

初めて日本語を学ぶ方のためのクラスです。
自己紹介や買い物など生活に必要な最低限の日本語が習得できるよう支援しています。

●会話クラス

日本語パートナーとともに、故郷や仕事など各回のテーマに沿って会話を楽しむクラスです。日本語の学びとともに相互理解を深める場としています。



オンラインによる会話練習(はじめの一歩クラス)

●各種研修

日本語教育人材及びボランティアの育成研修や外国人が理解しやすい「やさしい日本語」の普及を行っています。



「日本語で広がるコミュニケーション」をテーマに多文化共生シンポジウムを行いました。

●地域日本語教育コーディネーターの派遣



県内市町村、企業等に岐阜県が委嘱した「岐阜県地域日本語教育コーディネーター」の派遣を行い、地域日本語教室の開設や運営、「やさしい日本語」に関わる研修等への助言・支援を行っています。

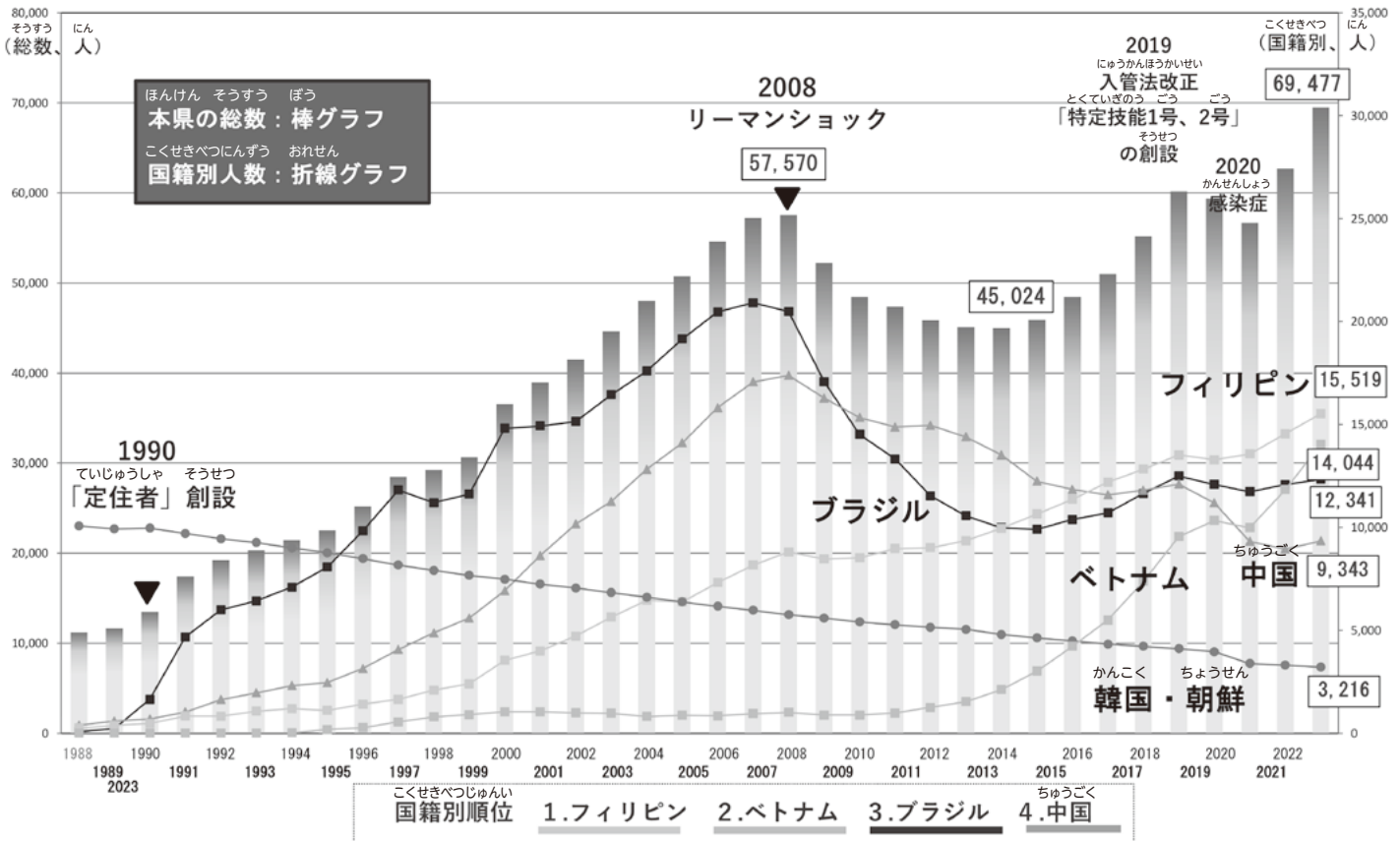
コーディネーター派遣を利用し、本巣市、垂井町が地域日本語教室を立ち上げました。
(写真は「もとす日本語おしゃべりひろば」の様子)



このコーナーでは、国・県がまとめた様々な人口データから岐阜県における在住外国人の現況を紹介していきます。

外国人県民人口の総数と国籍別の推移

法務省「在留外国人統計」
各年12月末時点



2023年(令和5年)は県内における在住外国人人口が過去最高となり、同年12月末現在の県内における国籍別の在住外国人人口は、フィリピン国籍が15,519人、ベトナム国籍が14,044人、ブラジル国籍が12,341人、中国国籍が9,343人と、これらの上位4か国で県全体の約7割を占めました。

また同年には、ベトナム国籍がブラジル国籍を抜き2位となるなど、技能実習生の送り出しが急拡大しているベトナムの人口増が顕著となっています。

今後については、ベトナム国籍の強い増加傾向、フィリピン国籍及びブラジル国籍の緩やかな増加傾向が続くことが予想されます。

GIC 事業報告

留学生等ネットワーク事業を開催しました

当センターでは、留学生と県民・県内企業等との交流の促進、留学生に岐阜の魅力を知って頂くことを目的として、「岐阜県魅力発見バスツアー」を実施しています。

本年度は、スバル学院本巣校の留学生32名が、「イオンモール各務原インター」「岐阜県広域防災センター」「世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ」を訪問しました。

イオンモール各務原インターでは、手巻き寿司作りを楽しんだ後、同社の海外展開や環境への取組を学ぶなど企業への理解を深めました。また防災センターでは、消火器訓練や地震体験などの実践的な訓練を経験をするなど、大規模災害への備えの一助としました。



けんびりゅうがくせい うけいれ じぎょう 県費留学生受け入れ事業

めいじこうはんいこう にほんじん なんべい いじゅう せつぎよくてき おこな
明治後半以降、日本人の南米への移住が積極的に行
われるようになり、岐阜県からは特にブラジル、アル
ゼンチン、ペルーへの移住が多く、それぞれの国で岐
阜県人会が設立されました。

岐阜県では、これらの岐阜県人会への支援の一環と
して、県人会員の子弟を対象とした「県費留学生受け入
れ事業」を実施しており、これまで岐阜県にルーツを持
つ75人の若者が県内大学に留学しています。

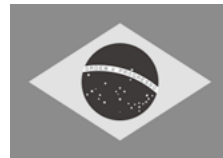
今年度県費留学生のフェルナンダ・今井さんは、昨
年4月にブラジル・サンパウロから来日し、岐阜大学大
学院でコーヒーの葉の研究や日本語の習得に励む一方
で、県内の各種国際交流イベントにも熱心に参加され
るなど、岐阜県での生活を満喫されました。

3月には留学期間を終え帰国の途につきますが、「岐阜
県で学んだ経験を活かして、引き続き研究に励みたい
し、県人会活動にも参加したい」と熱く語っています。

さくねん がつ らいにち いらい ぎふ だいがくおようせいぶつがく
昨年4月に来日して以来、岐阜大学応用生物学
部の植物病理学研究室で学んでいます。かつて
岐阜県の招へい事業で来日した経験のある母や
叔母から、日本についていろいろと聞いては
いたものの、県費留学生となる前は、日本を訪
れたことすらありませんでした。

今回、岐阜県、特に祖父の故郷である下呂市
を訪れ、その豊かな文化に触れることができ、
感激しました。

ここで素晴らしい時間を過ごせたことにと
ても感謝しています。ありがとうございます。



フェルナンダ・今井さん

たぶん かきょうせい かいさい 多文化共生サロンを開催しました

とう センターでは、いぶん かりかい そくしん たぶん かきょうせい
当センターでは、異文化理解の促進・多文化共生
社会の実現に向けた意識啓発等を目的とした「多文
化共生サロン」事業を実施しています。

今年度2回目となる今回は、3名の国際交流員が
母国料理を紹介する「3か国の簡単なレシピワーク
ショップ」を実施しました。



ブラジルのポン・デ・ケージョ（チーズパン）、中国の珍珠丸子（肉
団子にもち米をまぶした蒸し料理）、ベトナムのバインチャンヌオン
（ベトナム風ピザ）といった短時間でできる簡単な料理を順次紹介し、
調理を楽しみました。

参加者からは、「作り方も簡単で本当においしかった。」「色々な国籍
の方々とたくさん交流ができてとても楽しかった！」などの感想が聞
かれるなど大好評でした。

東海イラン友好協会

東海イラン友好協会は多治見在住の陶芸家7代加藤幸兵衛氏がお父上の人間国宝故加藤卓男氏のイランの至宝ラスター彩陶器(8世紀～13世紀)の失われた技法復元を手伝われ、2012年にイランを訪問、イラン政府による翌2013年のイランでの展覧会開催によって民間外交が始まったことを受けて、前愛知県知事神田真秋氏を会長に2016年に設立されました。



2024年10月17日
協会員によるイラン大使館訪問と大使館昼食会



現在日本において唯一の草の根での民間交流協会としてイラン大使館や外務省中東課、笹川平和財団に認めて頂いています。イランを旅した人々の一番の感想は「イランの人々のやさしさ」です。混沌とした世の中だからこそ、誤解を受けやすいイランのため身近なイランを伝え、民間人同士での交流を進めたいと思っています。

イランの国立レザアバシー美術館に寄贈された、7代幸兵衛作ラスター彩陶壁

東海イラン友好協会事務局：中嶋 英子
〒507-0901 岐阜県多治見市笠原町4436-1
Tel:0572-43-3505 Fax:0572-43-5309
携帯：090-4860-4825
Mail:eiko.n@mbh.nifty.com

JICA 岐阜県デスクからのお知らせ



JICA 海外協力隊が見た世界

～思い出の一枚の写真～

名前：本迫 武 出身地：奈良県五條市
派遣期間：2017年7月～2019年7月
派遣国：ヨルダン・ハシミテ王国 ザアタリ難民キャンプ
職種：青少年活動



マンディ ヨーグルトを添えて

<エピソード> 中東に位置する歴史豊かな国、ヨルダン。写真はヨルダンを代表する料理の一つです。料理名をマンディといいます。大きい鶏肉と幾千ものスパイスをお米と共に炊飯器に入れ、炊き上げる、なんとも豪快な料理です。一緒に添えられているのはヨーグルトです。これ単体で食すのではなく、マンディにかけて食べるのです。なんてことをするんだ！と最初は私も驚愕していたのですが、これがなんと本当に美味です。マンディの複雑でパンチのある味とヨーグルトの酸味が溶け合い、マリアーージュ。是非試してみてください。

～ 国際協力や多文化共生に関することなど、お気軽にお問い合わせください～

JICA岐阜県デスク 本迫 武 TEL:058-263-8069 E-mail:jicadpd-desk-gifuken@jica.go.jp

GIC Information

岐阜県国際交流センターの事業紹介・お知らせ

公益財団法人岐阜県国際交流センター(Gifu International Center/通称GIC)は、地域に根ざした国際交流拠点として、岐阜県の豊かな自然環境、歴史、文化その他の資源をいかした国際交流活動を通じて、多文化共生社会の実現を図るとともに、諸外国との相互理解と友好親善に寄与することを目的としています。

平成24年4月1日から公益財団法人に移行し、多文化共生、国際交流及び国際協力を推進しています。

多文化共生の
地域づくり

- 外国人の子ども・保護者の生活設計支援、キャリア教育支援
- 外国人相談員による生活相談、行政書士等専門家と連携した相談
- 日本語学習支援、日本語支援ボランティア等の育成、日本語学習に関する相談
- 外国人防災対策

地域国際化
推進のための
環境づくり

- 多文化共生の情報発信多言語情報誌「世界はひとつ」
- 多文化共生の理解促進(語学・外国文化講座)
- 国際理解教育(学校訪問)
- 日本人県民と外国人県民の国際交流イベント

ボランティア・
民間団体の
活動促進

- 医療通訳ボランティアの斡旋・育成
- 災害時語学ボランティアの育成
- 災害時の支援ネットワーク構築
- 多文化共生・国際交流団体への助成
- ボランティア登録、自治体・団体へのボランティアの紹介

【賛助会員募集】
当センターの活動を支援してください。個人・団体を募集します。

●年会費：個人 1口 3,000円
団体 1口 5,000円

●特典
情報誌「世界はひとつ」の送付、主催事業の参加費割引 など

岐阜県在住外国人相談センター

在住外国人の皆様の日常生活での困りごと(税金、住まい、教育、福祉等)について、ご相談ください。公的機関等の窓口と連携して皆様の問題解決をサポートします。

開所時間：月曜日～金曜日 9:30～16:30

電話番号：058-263-8066

対応言語：英語、中国語、ポルトガル語、タガログ語、ベトナム語ほか
10言語以上

いちき皮膚科

診療時間
月・火・木・金・土：9:00～12:00
月・火・木・金：15:30～18:30

休診日
土曜午後、水曜、日曜、祝日

〒502-0913
岐阜市東島3-9-13
☎ 058-231-1237

編集・発行

公益財団法人岐阜県国際交流センター (GIC)

岐阜県在住外国人相談センター

岐阜県日本語学習支援センター

〒500-8875 岐阜市柳ヶ瀬通1-12 岐阜中日ビル2階

電話 058-214-7700 FAX 058-263-8067

E-mail gic@gic.or.jp URL https://www.gic.or.jp

開館案内 9:30～18:00(日～金曜日)

休館 土曜日、祝日、年末年始

対応可能言語 英語、中国語、ポルトガル語、タガログ語、ベトナム語 ほか

